

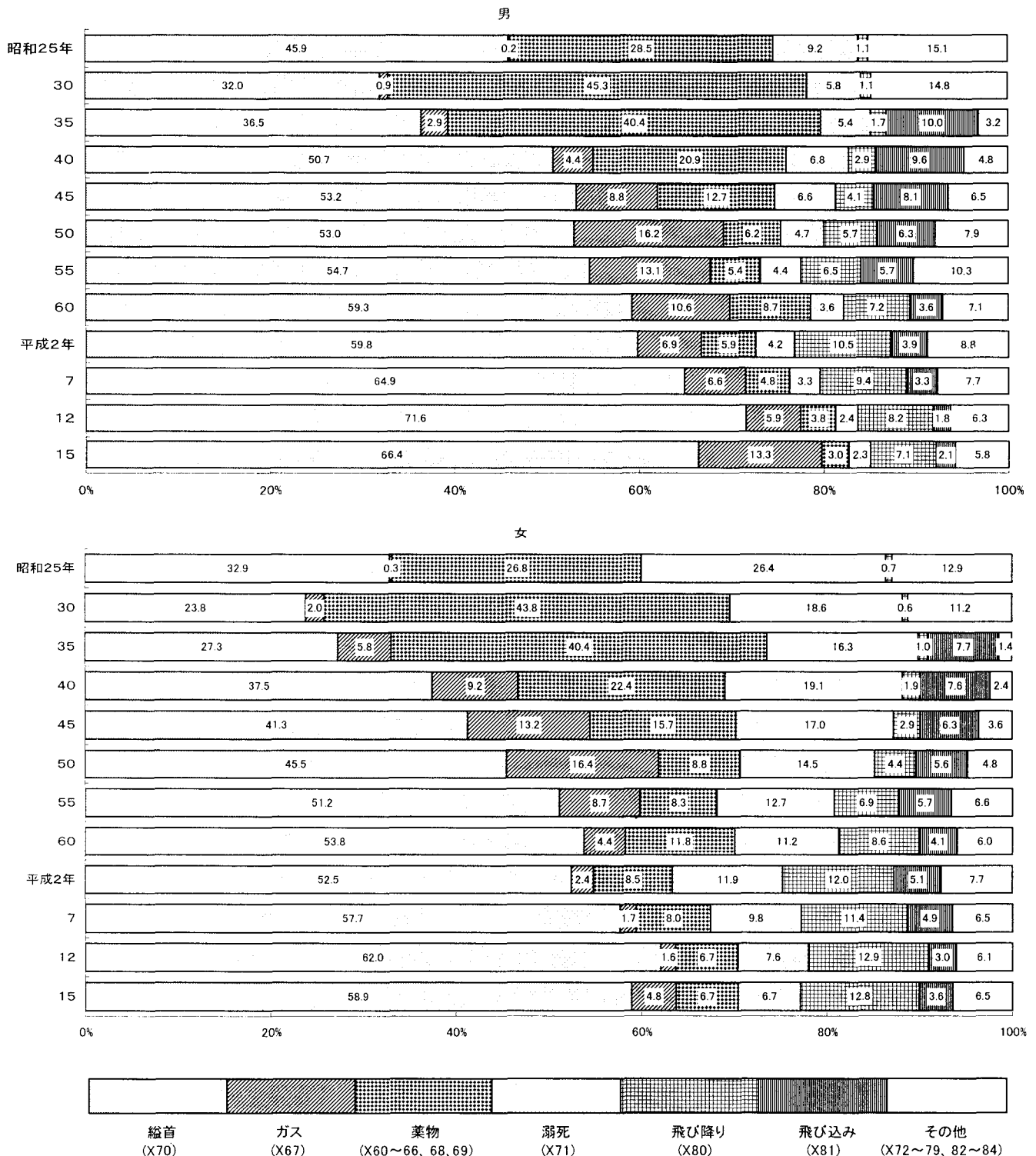
7. 手段別にみた自殺

(1) 年次比較

手段別の自殺死亡数の割合をみると、男は昭和28年～35年、女は昭和27年～37年において「薬物」が最も多く、その後激減している。

その他の年次は「縊首(いしゅ)」が最も多く、男女ともに増加傾向となっている。(図9、統計表第3表)

図9 性・手段別自殺死亡数構成割合の年次比較



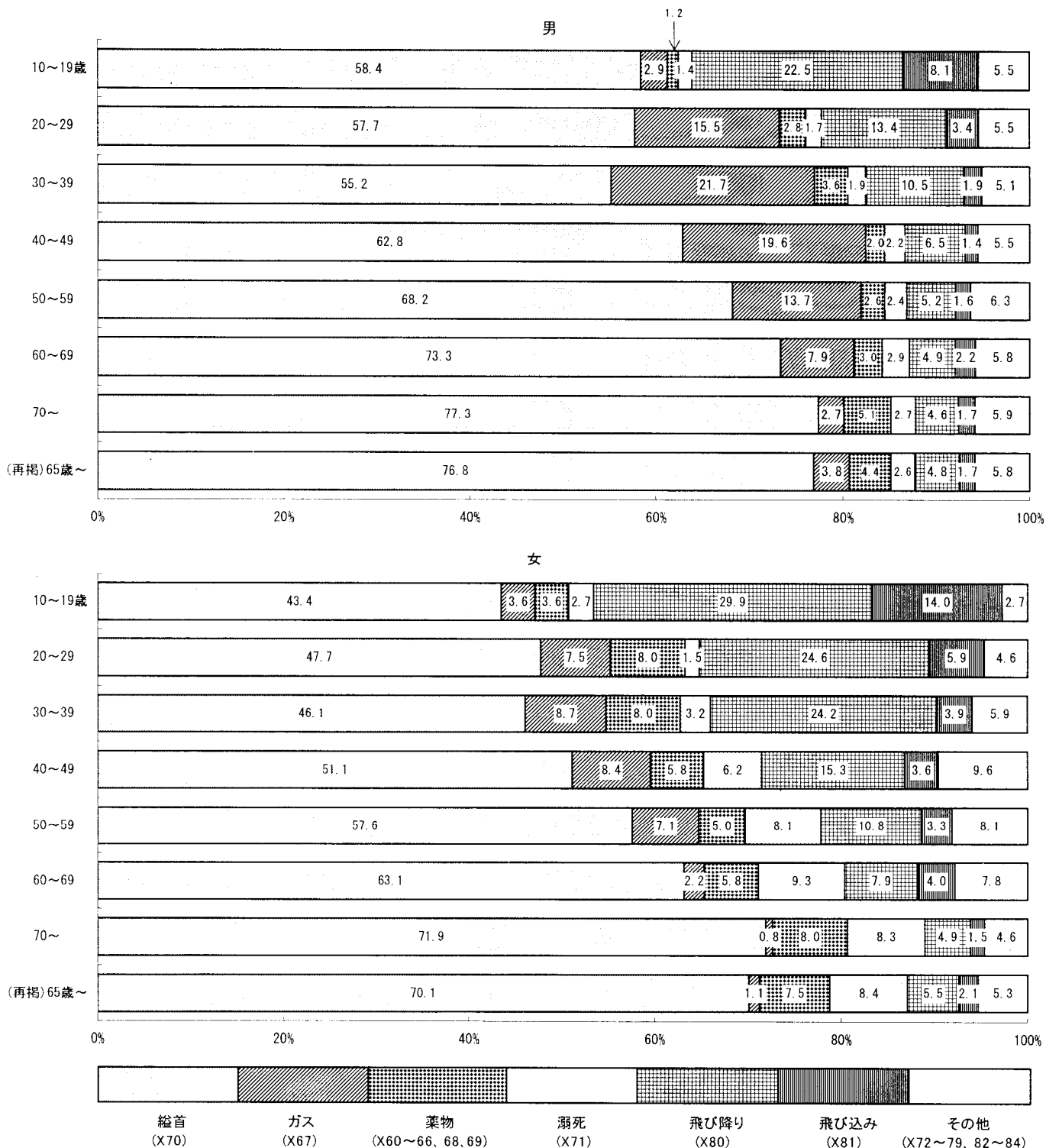
注：1) 昭和25年・30年・平成7年・12年・15年の「自傷の続発・後遺症」は自殺の合計には含まない。
 2) 昭和25年、30年の「飛び込み」は区分されず、「その他」に含まれる。
 3) ()は「第10回修正疾病及び関連保健問題の国際統計分類(以下「ICD-10」という。)基本分類番号」である。(P26「自殺の分類及び内容」を参照)

(2) 年齢階級別

平成 15 年における手段別の自殺死亡数の割合を性・年齢階級(10 歳階級)別にみると、男女ともすべての年齢階級で「縊首」による割合が最も多く、60 歳以上の男、70 歳以上の女では 70% を超えている。

次いで、男で 2 番目に多い「ガス」をみると、特に 30 代・40 代では 20% 前後となっている。一方、女では 2 番目に多い「飛び降り」をみると、10 歳代・20 歳代・30 歳代では 25% 前後となっている。(図 10)

図 10 性・年齢(10 歳階級)・手段別自殺死亡数構成割合 —平成 15 年—



注：() は「ICD-10 基本分類番号」である。(P26「自殺の分類及び内容」を参照)

8. 都道府県別にみた自殺

(1) 自殺死亡数・自殺死亡率・自殺年齢調整死亡率（人口10万対）

平成15年における都道府県別の自殺死亡率をみると、男は30.3～66.1、女は7.4～25.2の間に分布しており、標準偏差の単純平均に対する割合は、男20%、女21%と同程度となっている。

また、都道府県別の年齢調整死亡率をみると、最高は男女とも秋田、最低は男が神奈川県、女が佐賀となっている。（表9）

表9 性・都道府県別自殺死亡数・自殺死亡率・自殺年齢調整死亡率（人口10万対）

—平成15年—

都道府県	死亡数			死亡率(人口10万対)			年齢調整死亡率(人口10万対)	
	総数	男	女	総数	男	女	男	女
全 国	32 109	23 396	8 713	25.5	38.0	13.5	32.8	10.8
北 海 道	1 531	1 095	436	27.1	40.7	14.8	35.5	11.9
青 森 県	576	446	130	39.5	64.4	17.0	55.9	11.6
岩 手 県	527	395	132	37.8	59.0	18.2	52.7	11.1
宮 城 県	621	469	152	26.3	40.7	12.6	37.1	10.0
秋 田 県	519	365	154	44.6	66.1	25.2	56.0	16.2
山 形 県	370	273	97	30.2	46.1	15.3	40.1	11.4
福 島 県	586	447	139	27.9	43.6	12.9	39.3	10.1
茨 城 県	748	554	194	25.3	37.7	13.1	33.9	10.3
栃 木 県	523	360	163	26.3	36.5	16.3	31.7	12.6
群 馬 県	562	397	165	28.1	40.3	16.3	34.9	12.3
埼 千 東 神 奈 新	1 563	1 104	459	22.5	31.5	13.3	27.7	11.1
玉 葉 京 川 湯	1 326	970	356	22.3	32.5	12.0	28.1	10.2
2 743	1 933	810	22.7	32.2	13.4	27.8	11.3	
1 791	1 313	478	20.9	30.3	11.3	26.5	9.6	
833	590	243	34.0	49.7	19.3	41.9	12.2	
富 石 福 山 山 長	356	254	102	32.1	47.6	17.7	38.9	12.6
303	222	81	25.8	39.1	13.4	34.4	10.9	
246	185	61	30.1	46.6	14.5	39.6	11.1	
223	171	52	25.5	39.9	11.7	35.6	9.8	
576	403	173	26.4	37.9	15.5	33.1	11.2	
岐 静 愛 三 滋	546	383	163	26.3	38.0	15.2	31.8	11.9
786	590	196	21.1	32.2	10.4	28.4	8.0	
1 566	1 083	483	22.3	30.8	13.8	27.0	11.3	
456	329	127	24.9	37.0	13.4	32.5	9.8	
330	239	91	24.5	36.0	13.3	31.1	10.1	
京 大 兵 奈 和	602	420	182	23.2	33.6	13.5	29.0	10.6
2 186	1 588	598	25.3	37.7	13.5	32.1	11.3	
1 280	927	353	23.3	35.1	12.3	30.4	10.5	
296	213	83	20.7	31.2	11.1	27.7	8.9	
271	184	87	25.8	37.0	15.7	32.2	11.8	
鳥 島 岡 広 山	145	109	36	23.9	37.5	11.4	32.1	7.8
237	172	65	31.6	48.0	16.6	41.0	10.7	
397	290	107	20.5	31.2	10.6	28.5	8.6	
650	475	175	22.8	34.4	11.9	30.0	9.4	
412	299	113	27.5	42.2	14.3	35.0	11.4	
徳 香 愛 高 福	165	118	47	20.3	30.5	11.0	26.9	8.5
226	172	54	22.3	35.3	10.2	31.1	7.9	
394	287	107	26.7	41.2	13.7	37.1	11.7	
236	175	61	29.4	46.2	14.4	40.7	11.0	
1 352	1 016	336	26.9	42.6	12.8	38.2	10.6	
佐 長 熊 大 宮	216	182	34	24.9	44.3	7.4	41.6	6.1
449	337	112	30.0	48.0	14.1	43.8	11.2	
498	367	131	26.9	42.0	13.4	38.4	10.2	
309	221	88	25.5	38.7	13.8	34.4	10.9	
369	278	91	31.8	50.8	14.8	45.3	10.6	
鹿 沖 児 島 縄	482	378	104	27.2	45.5	11.1	40.0	8.4
350	276	74	26.1	41.9	10.8	40.5	10.1	
標 準 偏 差 (単純平均 ²⁾ に 対する割合)				4.9 (18%)	8.1 (20%)	2.8 (21%)	7.1 (20%)	1.6 (15%)

注：1) 年齢調整死亡率の基準人口は、昭和60年モデル人口である。

2) 単純平均とは、47都道府県の値を単純に平均したものである。

(2) 手段別自殺死亡数割合

平成15年における都道府県別の手段別の自殺死亡数割合をみると、すべての都道府県で「縊首」が最も多くなっているが、その割合は男女で異なっており、男では最も多い島根(77.3%)から最も少ない群馬(54.7%)まで20%以上の差があり、女では最も多い佐賀(82.4%)から最も少ない沖縄(44.6%)まで40%近い差がある。

また、沖縄・福井では男女の差が20%以上となっている。

市郡別に手段別の自殺死亡数の割合をみると、いずれも「縊首」が多くなっているが、男女ともに14大都市では「飛び降り」が多くなっており、郡部では「縊首」「薬物」が多くなっている。(表10)

表10 性・都道府県一市郡別にみた手段別自殺死亡数構成割合 ー平成15年ー

都道府県	男								女								
	総数	縊首(X70)	ガス(X67)	薬物(X60~X66、X68、X69)	溺死(X71)	飛び降り(X80)	飛び込み(X81)	その他(X72~X79、X82~X84)	総数	縊首(X70)	ガス(X67)	薬物(X60~X66、X68、X69)	溺死(X71)	飛び降り(X80)	飛び込み(X81)	その他(X72~X79、X82~X84)	
北海道	100.0	70.2	15.7	1.5	2.3	4.1	0.9	5.3	100.0	67.2	5.5	3.4	5.5	7.1	2.1	9.2	
	青森	100.0	73.1	16.8	2.9	2.0	1.3	—	3.8	100.0	66.2	5.4	7.7	5.4	3.1	—	12.3
	岩手	100.0	65.1	20.8	2.8	3.0	4.1	0.5	3.8	100.0	72.0	2.3	6.8	9.8	3.8	0.8	4.5
	宮城	100.0	61.2	22.8	2.1	3.2	6.0	0.9	3.8	100.0	61.2	3.3	2.6	13.2	13.2	2.0	4.6
秋田	100.0	71.5	17.8	1.6	1.4	2.5	0.8	4.4	100.0	68.2	8.4	3.9	6.5	1.9	1.9	9.1	
	山形	100.0	71.1	16.5	2.2	1.5	2.6	1.1	5.1	100.0	70.1	7.2	3.1	7.2	4.1	1.0	7.2
	福島	100.0	61.3	20.4	2.5	2.5	3.4	0.9	9.2	100.0	51.1	10.8	13.7	7.9	5.8	5.0	5.8
	茨城	100.0	62.3	15.5	5.4	3.8	4.3	1.1	7.6	100.0	55.2	5.2	10.3	7.2	7.7	3.6	10.8
群馬	100.0	58.6	19.2	5.6	0.6	6.7	1.9	7.5	100.0	57.1	6.7	12.3	3.7	8.0	4.3	8.0	
	栃木	100.0	54.7	19.4	7.3	1.8	7.1	2.0	7.8	100.0	61.8	5.5	12.1	9.7	7.9	0.6	2.4
	埼玉	100.0	61.1	12.6	4.9	2.4	10.6	2.5	5.9	100.0	54.2	4.6	9.2	7.2	12.4	6.3	6.1
	千葉	100.0	64.5	13.6	3.3	2.0	6.2	3.1	7.3	100.0	61.2	4.5	4.8	3.7	15.7	2.8	7.3
東京都	100.0	61.9	6.9	2.7	2.9	15.0	4.6	6.0	100.0	47.7	2.0	6.9	4.8	26.5	6.0	6.0	
	神奈川	100.0	64.1	10.1	2.4	1.6	11.5	3.2	7.1	100.0	55.0	2.7	4.4	4.0	20.3	6.1	7.5
	新潟	100.0	71.2	13.4	4.2	2.5	2.5	0.5	5.6	100.0	63.8	2.9	7.4	9.9	4.5	2.5	9.1
	富山	100.0	74.8	9.8	2.0	3.5	3.1	2.0	4.7	100.0	63.7	3.9	5.9	14.7	2.9	2.0	6.9
石川県	100.0	68.5	15.3	4.1	1.8	4.1	1.4	5.0	100.0	60.5	6.2	4.9	7.4	13.6	1.2	6.2	
	福井	100.0	73.5	15.1	3.2	2.7	2.2	0.5	2.7	100.0	49.2	11.5	4.9	13.1	8.2	3.3	9.8
	山梨	100.0	61.4	15.2	5.8	1.2	5.8	1.8	8.8	100.0	59.6	7.7	3.8	17.3	7.7	—	3.8
	長野	100.0	65.3	16.9	3.0	2.7	5.7	2.2	4.2	100.0	56.1	8.7	5.2	9.8	8.7	4.0	7.5
岐阜県	100.0	70.0	14.6	1.8	1.8	6.3	0.5	5.0	100.0	57.1	8.6	10.4	2.5	11.7	2.5	7.4	
	静岡県	100.0	66.6	13.9	4.6	1.9	5.4	1.5	6.1	100.0	55.6	5.1	11.7	4.6	9.2	6.6	7.1
	愛知県	100.0	67.7	11.8	1.6	2.3	7.8	1.7	7.2	100.0	58.4	5.6	4.6	7.5	13.9	4.3	5.8
	三重県	100.0	69.3	14.3	1.8	3.0	6.1	1.2	4.3	100.0	65.4	3.9	9.4	7.1	3.9	3.1	7.1
滋賀県	100.0	71.1	8.8	1.3	2.9	5.0	0.8	10.0	100.0	54.9	9.9	4.4	11.0	11.0	6.6	2.2	
	京都府	100.0	64.5	12.6	3.6	1.7	8.3	4.3	5.0	100.0	58.8	4.4	5.5	9.2	17.6	3.3	2.2
	大阪府	100.0	64.9	9.4	2.0	1.8	13.2	3.4	5.4	100.0	53.2	3.8	5.9	5.7	20.4	4.7	6.4
	兵庫県	100.0	64.1	12.1	1.6	2.2	10.2	3.2	6.6	100.0	56.4	4.0	4.8	5.7	20.7	4.2	4.2
和歌山県	100.0	70.4	17.4	1.9	—	3.3	0.9	6.1	100.0	55.4	2.4	9.6	7.2	12.0	10.8	2.4	
	鳥取県	100.0	74.5	12.5	2.7	0.5	3.3	2.2	4.3	100.0	75.9	3.4	3.4	5.7	8.0	1.1	2.3
	島根県	100.0	67.0	19.3	4.6	0.9	5.5	0.9	1.8	100.0	75.0	2.8	2.8	11.1	5.6	—	2.8
	岡山県	100.0	77.3	10.5	2.3	4.1	2.9	—	2.9	100.0	80.0	1.5	4.6	7.7	3.1	—	3.1
広島県	100.0	70.0	16.9	2.4	1.7	1.7	0.7	6.6	100.0	69.2	4.7	5.6	6.5	5.6	0.9	7.5	
	山口県	100.0	72.2	14.9	0.4	1.9	5.1	1.1	4.4	100.0	69.1	4.6	3.4	6.3	8.6	1.7	6.3
	徳島県	100.0	74.9	12.4	1.3	3.3	1.7	1.3	5.0	100.0	71.7	3.5	5.3	8.8	5.3	1.8	3.5
	香川県	100.0	66.1	11.0	4.2	6.8	2.5	2.5	6.8	100.0	59.6	8.5	14.9	10.6	2.1	2.1	2.1
愛媛県	100.0	69.8	12.2	2.9	1.2	8.1	—	5.8	100.0	61.1	—	13.0	16.7	7.4	—	1.9	
	高知県	100.0	65.5	15.3	3.8	3.1	5.9	1.0	5.2	100.0	60.7	6.5	5.6	7.5	14.0	—	5.6
	福岡県	100.0	65.7	17.7	5.1	1.1	2.9	1.1	6.3	100.0	59.0	6.6	13.1	8.2	3.3	1.6	8.2
	佐賀県	100.0	65.4	16.1	3.3	3.1	4.7	1.6	5.7	100.0	56.5	8.0	7.1	6.5	13.1	1.8	6.8
長門県	100.0	66.5	15.9	5.5	1.6	2.7	0.5	7.1	100.0	82.4	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	
	熊本市	100.0	73.9	11.3	3.3	3.0	3.0	0.3	5.3	100.0	63.4	4.5	5.4	8.0	6.3	1.8	10.7
	本部分	100.0	65.4	15.5	6.5	1.6	5.7	1.6	3.5	100.0	58.8	9.2	9.2	4.6	9.2	3.8	5.3
	大宮市	100.0	68.8	17.2	1.4	2.7	4.1	1.8	4.1	100.0	58.0	3.4	8.0	8.0	5.7	6.8	10.2
鹿児島県	100.0	71.9	13.7	5.8	1.4	2.9	0.7	3.6	100.0	72.5	1.1	9.9	2.2	5.5	1.1	7.7	
	鹿島	100.0	73.3	12.2	5.0	2.4	3.2	—	4.0	100.0	69.2	3.8	10.6	1.9	11.5	—	2.9
	沖縄	100.0	74.6	9.8	2.2	3.6	5.1	—	4.7	100.0	44.6	4.1	8.1	9.5	27.0	—	6.8
	(再掲)																
14大都市	100.0	63.6	10.0	2.2	2.6	12.6	3.0	6.0	100.0	52.7	3.6	5.5	5.0	23.4	4.3	5.5	
	市部	100.0	65.9	14.3	2.9	2.3	6.8	2.0	5.9	100.0	58.5	5.5	6.3	6.9	12.0	4.0	6.8
	郡部	100.0	70.1	14.9	3.9	2.1	2.8	0.8	5.3	100.0	65.3	4.5	8.6	7.5	5.5	2.1	6.6

注：()は「ICD-10基本分類番号」である。(P26「自殺の分類及び内容」を参照)

9. 職業・産業別にみた自殺(平成12年度人口動態職業・産業別統計)

国勢調査実施年度に実施している人口動態職業・産業別統計により平成12年度における自殺死亡率(人口10万対)をみると、「就業者総数」では男32.9、女8.9、「無職」では男70.8、女21.9となっており、特に男の「無職」が高くなっている。

就業者を職業別にみると、男では「農林漁業作業者」「サービス職業従事者」が高くなっている。(表11)

産業別にみると、男女ともに「第1次産業」が高くなっている。(表12)

表11 15歳以上自殺死亡数、死亡率(人口10万対)・職業(大分類)別 —平成12年度—

	男		女	
	死亡数	死亡率 (人口10万対)	死亡数	死亡率 (人口10万対)
総数	22 048	42.3	8 643	15.7
就業者総数	12 146	32.9	2 260	8.9
A 専門的・技術的職業従事者	1 679	35.6	247	6.7
B 管理的職業従事者	671	42.3	64	*32.3
C 事務従事者	892	19.7	271	3.6
D 販売従事者	1 223	20.3	212	6.2
E サービス職業従事者	988	51.1	302	8.5
F 保安職業従事者	230	24.3	11	*21.6
G 農林漁業作業者	975	54.2	237	17.6
H 運輸・通信従事者	754	35.2	30	*27.9
I 生産工程・労務作業者	2 086	16.2	182	3.4
J 分類不能の職業	2 648	...	704	...
無職	9 902	70.8	6 383	21.9

注: 1) 「J 分類不能の職業」には仕事の有無不詳を含む。

2) 表中*印の付してある数値については、発生件数が100未満のもので数値が特に不安定であることに注意する必要がある。

表12 15歳以上自殺死亡数、死亡率(人口10万対)・産業(大分類)別 —平成12年度—

	男		女	
	死亡数	死亡率 (人口10万対)	死亡数	死亡率 (人口10万対)
総数	22 048	42.3	8 643	15.7
就業者総数	12 146	32.9	2 260	8.9
第1次産業	1 134	63.6	270	19.5
A 農業	961	62.5	251	19.1
B 林業	53	*95.4	3	*26.0
C 漁業	120	63.4	16	*25.2
第2次産業	3 205	24.2	289	5.7
D 鉱業	105	233.5	16	*192.5
E 建設業	1 721	32.4	70	*7.5
F 製造業	1 379	17.5	203	4.9
第3次産業	4 639	21.5	883	4.7
G 電気・ガス・熱供給・水道業	245	81.1	20	*40.3
H 運輸・通信業	829	26.2	47	*6.4
I 卸売・小売業・飲食店	1 229	17.6	246	3.4
J 金融・保険業	129	15.3	23	*2.5
K 不動産業	115	25.4	16	*5.5
L サービス業務	1 616	19.8	461	5.1
M 公務	476	29.2	70	*13.6
N 分類不能の産業	3 168	...	818	...
無業	9 902	70.8	6 383	21.9

注: 1) 「N 分類不能の産業」には仕事の有無不詳を含む。

2) 表中*印の付してある数値については、発生件数が100未満のもので数値が特に不安定であることに注意する必要がある。

職業別に手段をみると、男女とも「縊首」が最も多く、「農林漁業作業」では「薬物」、「運輸・通信従事者」では「ガス」が多くなっている。(表 13)

表 13 15 歳以上自殺死亡数の性・職業(大分類)別にみた手段別自殺死亡数構成割合
—平成 12 年度—

(単位：%)

	総数	縊首 (X70)	ガス (X67)	薬物 (X60～ X66、 X68、 X69)	溺死 (X71)	飛び降り (X80)	飛び込み (X81)	その他 (X72～ X79、 X82～ X84)
男	100.0	72.6	5.7	3.8	2.3	7.9	1.8	5.9
就業者総数	100.0	72.7	7.3	3.6	2.3	7.0	1.4	5.7
A 専門的・技術的職業従事者	100.0	75.7	6.1	3.4	2.0	6.6	0.7	5.7
B 管理的職業従事者	100.0	77.2	6.1	3.0	1.2	5.2	1.3	6.0
C 事務従事者	100.0	67.3	7.4	2.5	3.0	11.1	2.5	6.3
D 販売従事者	100.0	72.2	8.5	2.5	1.6	7.1	0.9	7.1
E サービス職業従事者	100.0	73.9	8.1	3.0	1.7	6.2	1.4	5.7
F 保安職業従事者	100.0	73.5	5.2	1.3	1.3	7.0	2.6	9.1
G 農林漁業作業	100.0	75.3	4.6	12.3	1.7	1.8	—	4.2
H 運輸・通信従事者	100.0	68.3	14.7	2.0	2.9	6.0	1.2	4.9
I 生産工程・労務作業	100.0	73.0	9.4	3.6	2.1	5.2	1.0	5.7
J 分類不能の職業	100.0	71.3	4.8	2.5	3.1	10.1	2.7	5.4
無職	100.0	72.5	3.7	3.9	2.5	9.0	2.2	6.2
女	100.0	63.1	1.5	6.9	7.0	12.6	2.7	6.2
就業者総数	100.0	59.4	2.8	8.3	5.8	15.0	2.7	5.9
A 専門的・技術的職業従事者	100.0	52.6	2.0	7.7	4.5	22.7	4.0	6.5
B 管理的職業従事者	100.0	56.3	3.1	10.9	7.8	12.5	3.1	6.3
C 事務従事者	100.0	57.2	2.6	6.6	5.9	18.8	3.7	5.2
D 販売従事者	100.0	62.3	5.2	6.1	6.1	11.3	1.9	7.1
E サービス職業従事者	100.0	67.2	3.3	5.3	7.0	11.6	1.7	4.0
F 保安職業従事者	100.0	81.8	—	9.1	—	9.1	—	—
G 農林漁業作業	100.0	66.2	0.4	21.5	4.2	1.3	1.3	5.1
H 運輸・通信従事者	100.0	66.7	10.0	3.3	3.3	6.7	3.3	6.7
I 生産工程・労務作業	100.0	65.9	5.5	7.7	3.8	8.8	1.1	7.1
J 分類不能の職業	100.0	54.1	2.1	6.8	6.8	20.2	3.6	6.4
無職	100.0	64.4	1.1	6.4	7.3	11.8	2.6	6.4

注：1) 「J 分類不能の職業」には仕事の有無不詳を含む。

2) () は「ICD-10基本分類番号」である。(P26「自殺の分類及び内容」を参照)

10. 平成6年～平成15年の状況

(1) 年齢別にみた自殺

性・年齢階級(5歳階級)別自殺死亡率をみると、男では、50歳代をピークとする大きな山が形成されており、20歳代～60歳代が平成6年～平成9年と平成10年以降の大きく2層に分かれている。また、30歳代～40歳代では平成15年においてやや高くなっている。

一方、女は各年ともほぼ同様で、高齢になるにしたがって高くなっている。
(図11、表14)

図11 性・年齢(5歳階級)別自殺死亡率の年次比較

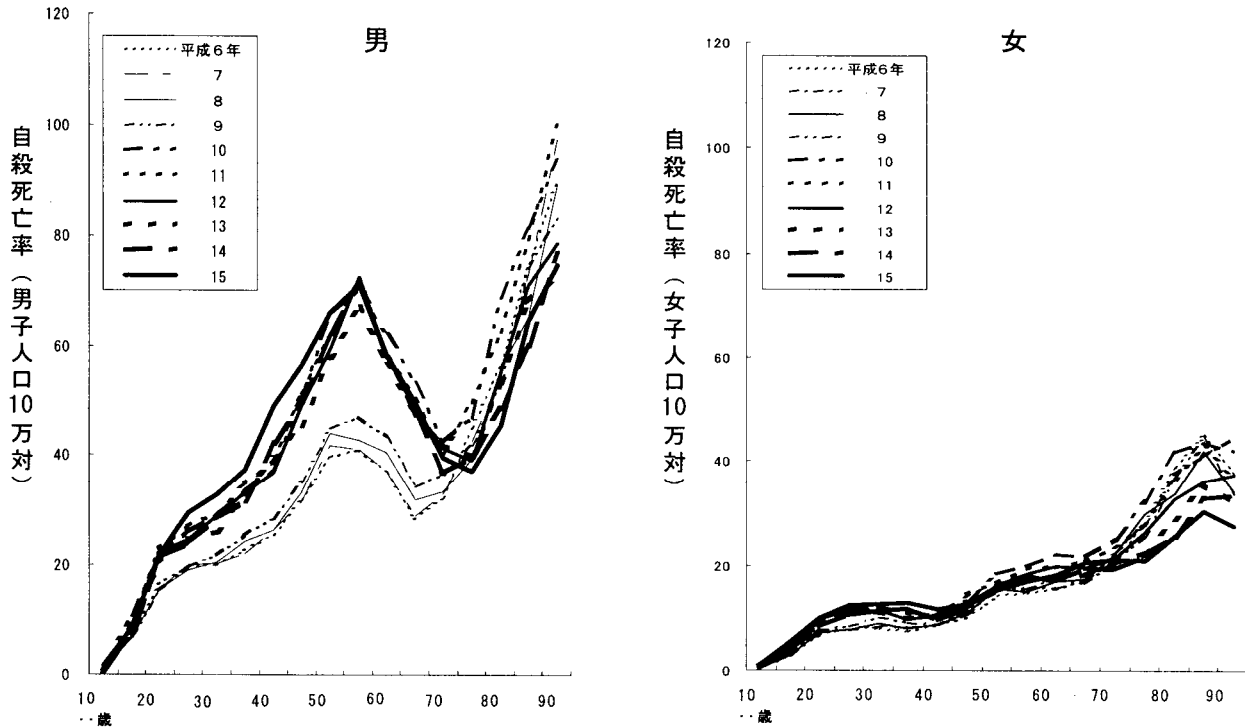


表14 性・年齢(5歳階級)別自殺死亡率(人口10万対)の年次比較

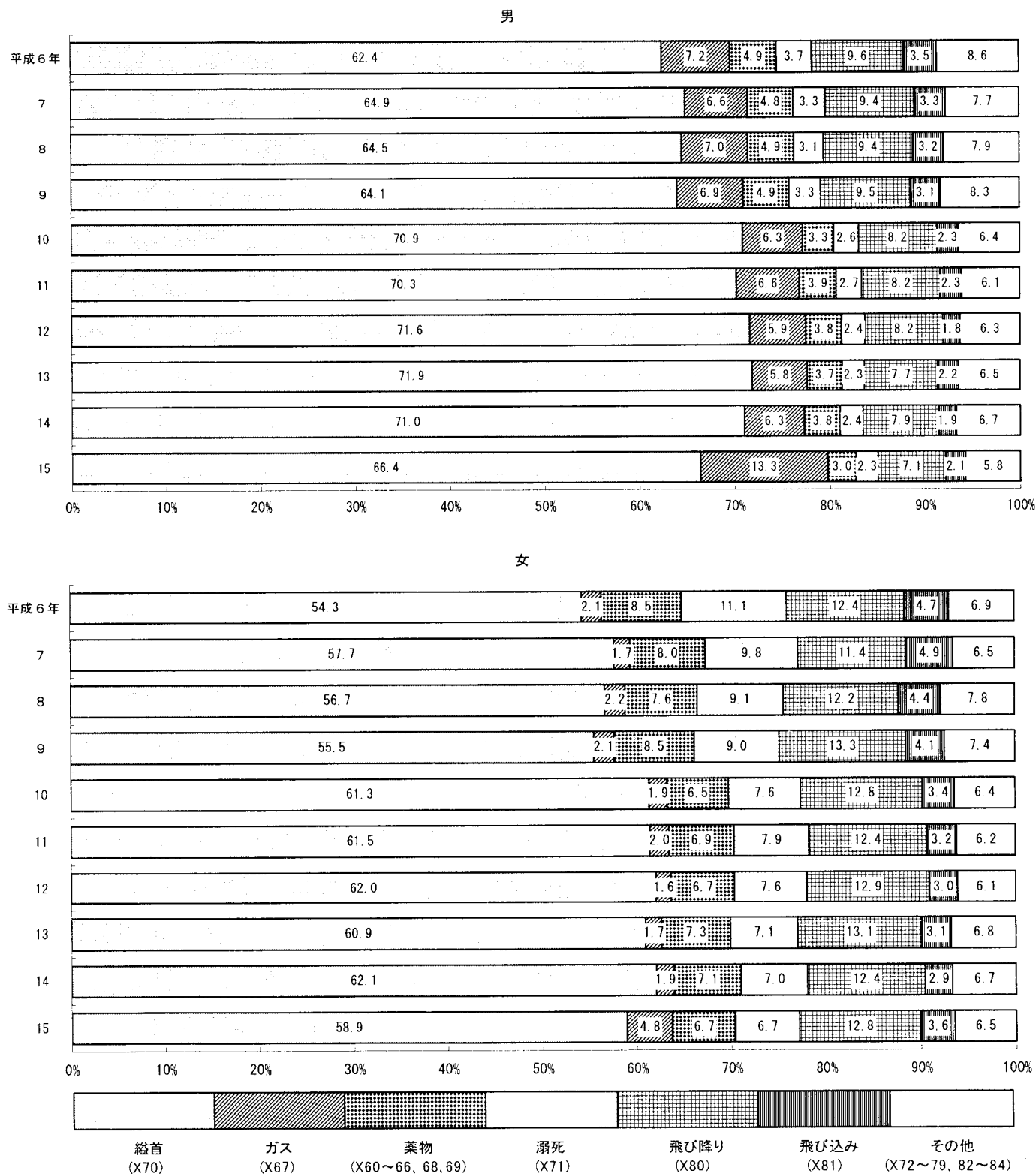
年齢階級	男										女									
	平成6年(1994)	7(95)	8(96)	9(97)	10(98)	11(99)	12(2000)	13(01)	14(02)	15(03)	平成6年(1994)	7(95)	8(96)	9(97)	10(98)	11(99)	12(2000)	13(01)	14(02)	15(03)
総数	23.1	23.4	24.3	26.0	36.5	36.5	35.2	34.2	35.2	38.0	10.9	11.3	11.5	11.9	14.7	14.1	13.4	12.9	12.8	13.5
10～14歳	1.4	1.1	1.1	0.9	1.8	1.3	1.7	1.2	0.8	1.0	0.5	0.6	0.6	0.5	0.8	0.9	0.5	0.7	0.4	1.1
15～19	7.1	6.6	6.7	6.9	10.8	9.3	8.8	8.4	7.6	8.8	3.0	3.3	3.0	2.8	4.8	4.8	3.8	4.7	3.9	5.6
20～24	16.3	15.3	15.3	15.1	21.9	22.8	22.0	20.1	21.3	21.5	6.9	7.4	7.4	7.7	9.6	9.4	9.7	9.1	8.6	9.9
25～29	19.7	20.0	19.0	19.6	25.8	26.9	24.4	24.6	23.7	29.2	8.6	7.7	7.8	8.6	11.7	10.7	11.5	11.0	10.6	12.4
30～34	19.8	20.2	20.4	21.6	28.8	29.4	28.8	25.9	28.2	32.9	8.0	8.6	9.0	10.1	12.2	12.5	11.3	11.1	11.4	12.6
35～39	22.7	21.9	24.0	25.2	33.3	34.9	33.0	32.8	31.5	37.2	7.5	8.2	8.0	9.2	11.2	10.9	9.8	9.9	11.8	12.8
40～44	25.3	26.0	26.0	28.4	37.5	38.9	36.8	39.4	42.3	49.0	8.8	8.8	8.7	8.7	10.5	10.2	10.5	10.6	9.8	11.6
45～49	31.7	31.4	33.1	35.0	50.4	51.4	49.0	45.5	49.6	56.3	9.9	10.8	11.0	11.7	13.4	14.5	12.2	12.4	11.9	12.6
50～54	39.8	41.7	44.0	45.0	65.8	62.1	59.5	57.9	62.3	66.0	14.3	15.8	15.5	16.1	18.5	16.7	16.3	15.3	16.2	15.3
55～59	40.9	41.1	42.7	47.0	70.2	72.6	72.5	67.1	71.0	71.1	14.7	15.6	15.1	15.8	19.9	19.4	18.4	18.2	18.1	17.1
60～64	36.8	37.1	40.6	43.4	62.1	57.9	58.2	56.7	57.9	58.4	15.5	15.7	16.9	17.4	22.2	19.6	19.9	17.8	17.2	18.2
65～69	28.2	28.9	31.9	34.4	53.3	50.4	48.1	47.8	47.4	49.4	17.5	17.0	17.5	16.8	21.8	20.9	19.7	18.4	19.7	20.7
70～74	32.2	32.7	33.3	36.4	42.4	40.6	41.2	41.9	36.8	39.5	20.9	22.5	22.0	20.9	25.0	23.2	21.4	20.6	19.4	21.1
75～79	45.2	42.5	39.3	42.1	46.9	49.8	39.1	40.0	39.8	36.9	28.1	28.0	29.9	25.6	32.4	27.9	26.2	22.6	21.8	20.9
80～84	56.8	54.4	56.0	53.4	68.9	62.5	55.4	53.5	48.7	45.5	39.2	37.6	33.7	37.2	41.8	36.9	32.8	28.8	25.4	25.5
85～89	75.2	73.1	65.3	74.5	81.4	79.6	71.1	68.1	60.0	64.5	45.2	41.0	42.1	44.6	43.7	43.1	36.2	35.8	33.0	30.3
90～	90.2	97.5	89.4	83.6	93.9	100.0	78.8	72.8	77.1	74.8	37.9	44.6	34.3	33.8	42.1	36.9	37.4	32.4	33.6	27.4

注:「総数」には5～9歳及び年齢不詳を含む。

(2) 手段別にみた自殺

手段別の自殺死亡数の割合を年次別にみると、平成10年以降、男は70%台、女は60%台で推移していた「縊首」が、平成15年では減少し、「ガス」が急増している。
(図12)

図12 手段別自殺死亡数構成割合の年次比較



注：() は「ICD-10 基本分類番号」である。(P26「自殺の分類及び内容」を参照)